



10月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長 佐藤 幸子

日々の積み重ねの中で

園長 佐藤 幸子

今年は、雨続きですが、子どもたちはそれぞれの保育室やプレイルームで楽しく遊んでいます。晴れた日には、水を使って砂場で遊んだり、園庭で体を動かしたり、虫を捕まえたりする姿も見られています。屋上のプランターでは、うめ組が1学期に植えたポップコーンや綿がたくさん収穫できました。

うめ組では中秋の名月を前に「今日のお月さま」というコーナーがありました。子どもたちが、月の変化の写真やカレンダーを見て月の満ち引きを日ごとに表現していました。紙粘土を丸めて作ったお団子や、屋上でとれた収穫物なども月の下に飾っています。月を身近に感じ子どもたちの興味・関心が高まっていました。このように生活の中で日本の行事や天体のことについて取り入れ、体験しています。

うめ組では、リレー遊びがますます盛り上がっています。子どもたちは自分たちで道具を準備し、「やろう!」と声を掛け合いながら主体的に遊びを始めています。勝つ喜びだけでなく、負ける悔しさも味わいながら、友達と力を合わせて取り組む楽しさを感じています。負けて悔しくてバトンを投げてしまう姿もありましたが、そこで終わるのではなく、「どうして負けたのかな?」と担任と一緒に振り返る中で、「バトンを落とすことが多かったからだ」と自分たちなりに気付く姿が見られました。このように、自分で考え、原因を見つけ、次につなげようとする経験は、「学びに向かう力、人間性等」の育ちにつながっています。

また、みんなで活動するときには、その日の「がんばりポイント」を共有してからリレーに取り組んでいます。「今日はしっかりバトンを渡そう」「最後まで全力で走ろう」など、一人ひとりが目的を持って挑戦することで、意欲や粘り強さといった非認知能力も育まれています。

園庭からは「どっこいしょ! どっこいしょ!」「ソーラン! ソーラン!」という元気な掛け声も聞こえてきます。鳴子を手に踊る子どもたちの姿はとても生き生きとしており、その姿を見たすみれ組やみかん組の子どもたちも笑顔で応援しています。憧れの気持ちや応援し合う温かな関わりは、異年齢ならではの大切な育ちです。

10月には運動会があります。幼稚園の運動会では、幼児が遊びの中で踊ったり、体を動かす遊びを楽しみながら、動きが変わっていったり、ルールに気付いていったりしていきます。日々の積み重ねが大切です。保護者の皆様もお子さんの話や担任の話から一緒に日々の取り組みの様子を感じていただけたらと思います。



今日のお月さま



ポップコーンの収穫



よさこいソーラン



小学校の体育館で鬼ごっこ